「仕掛け学～相手の立場」

●分かっちゃいるけど

映画『ローマの休日』（1953年、アメリカ映画）に「真実の口」という神の顔をかたどった彫刻が出てきます。偽りの心を持つ者が手を入れると噛みきられるという伝説で紹介されています。

これを逆手にとった機械に感心しました。

同じかっこうをした発泡スチロール製の「真実の口」を、ある病院の玄関壁の前に置き、その口の裏側に消毒液噴霧の機械を置きました。口に手を入れるとセンサーが反応してアルコールの消毒液が出てくる仕掛けです。

さあ、そうすると、それまで800人ぐらいが見ても、使うのは4、5人だったのが、この「真実の口」を置くと、面白がって、使用率が2割位まで上がったそうです。

多くの人は、手を洗うだけでなく、アルコール消毒もした方がいいと、頭や理屈では「分かっちゃいるけど」、実際は行動をしていないのです。ところが、そんな人たちを動かしたのが「真実の口」でした。

今は、新型コロナウイルス感染の心配から、言われなくともアルコール消毒をするようになっていますね。

●仕掛け学

実は、このアイディアは、『仕掛け学』という研究をしている松村真宏氏（大阪大学大学院教授）が考案しました。

なぜ、消毒薬を使わなかった人が、使うようになったのか、先生は、次のように分析しています。

> 「人は、ああしろ、こうしろと指図しても簡単に人の行動は変わりません。
> それで結果的に本来の目的が達成されるように言い換え、別の見方でものを伝えてあげるといいだろうと思っています。
> それは考えて行動する前に〝ついやってしまう〟というところを重視しています。
> 例えば、たばこのポイ捨てをしてはいけないと知っているのに、やっている人がいます。
> 『たばこのポイ捨て禁止』と書く替わりに、吸い殻入れを2つ置いて『阪神と巨人どちらが好きですか?』と書いておくと、応援するチームに入れたくなるので、それで結果的にポイ捨ても減るということです。」

そういえば数年前から公共の男性トイレの小用便器の内側中心部分に、弓矢の的（まと）のシールが貼られているのも、この仕掛け学をもとにしていると分かりました。

頼まれたわけではないけれど、ついやってしまうのが「仕掛け」という訳です。

●相手の立場

年齢の幅を超えて愛された劇作家･井上ひさしさんに、たいへん有名な言葉があります。

> むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに

考えさせられる言葉です。そういえば、親鸞聖人の『一念多念文意（いちねんたねんもんい）』や『唯信抄文意（ゆいしんしょうもんい）』などには、その末尾に、次の言葉があります。

> ゐなかのひとびとの、文字のこころもしらず、あさましき愚痴きはまりなきゆゑに、やすくこころえさせんとて、おなじことを、とりかへしとりかへし書きつけたり。
> こころあらんひとは、をかしくおもふべし、あざけりをなすべし。
> しかれども、ひとのそしりをかへりみず、ひとすぢに愚かなるひとびとを、こころえやすからんとてしるせるなり。

なかなか行動に移せないでいる人びとを、なんとかして、教えに遇うところまでみちびいていきたいという温かい心が、行間からにじみ出ているように思います。

相手のことを本当に思うとき、いつの間にか、相手の立場に立って、本当の意味でよりそう生き方が生まれるのですね。

このようなあり方に、気づかぬうちに導かれ、私の口からお念仏が称えられるようになったのだと改めて教えられました。

合掌
万行寺第十八世住職　釋靜芳（本多 靜芳）

※ご縁のあったあなた！　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか?　お待ちしてます（会費はいずれも資料･茶菓代として千円です）。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。